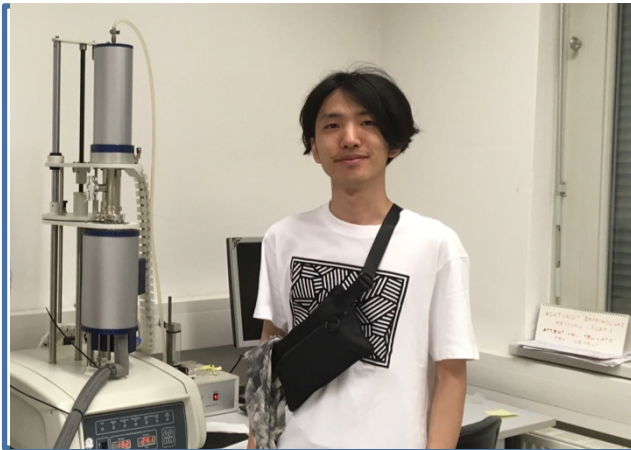


OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 井上大輔
所属 (School) 社会基盤材料研究グループ
学年 (Grade) 博士前期課程 2 回生

留学先 (Name of overseas institution)
オーストリア…ウィーン及びグラーツ
留学期間 (study abroad period)
2017/6/25～2017/7/3

記入日 (Date) 2017/7/7

留学レポート Study Abroad Report

今回のオーストリア訪問は、ウィーンで行われた国際学会への参加とグラーツ工科大学の訪問が目的です。美しい街並、美味しそうな料理、加えて比較的治安が良いこともあり訪問前は周りのメンバーから羨ましがられていましたが、私としては初の海外、初の学会(国内の学会へも参加経験無し)、さらに英語が苦手であったこともあり、期待と不安というよりは不安と不安の海外訪問でした。そのような気持ちの私が、どのように過ごし、初めての海外を見て、人と話し、何を感じたのかを伝えることができたいと思います。

まず、オーストリア訪問から数日は学会参加のためにウィーンに滞在。高さが整えられた建物群が美しく、また、古くから残る建築物は圧巻でした。ちなみに、ヨーロッパの古い建物に見られる黒さは、産業革命時代のススの名残だそうです。

この街で今年開催された学会は拡散(物質中で原子がどのような動きをするのかなどの研究)について。さて、この初めての学会で最も私の目についたのは、各国の先生方がいた所で歓談して

いること。参加前までは、学会にただ研究発表の場であるというだけのドライな印象しか持ち合

わせていなかったのが新鮮でした。学会には研究者の交流の場の側面も多いのだなあと。



左) ウィーンの街並、右) ウィーン大学中庭にて

ここからは私の一番の目的である学会でのポスター発表の話。オーストリア訪問前のことを話しますと、発表に使うポスターが出発の3日前にようやく完成したため、発表原稿はなんとか作った程度で練習は不十分、といった問題が残っていました。ただ、これ以上の準備時間がなかったために、「話しは発表時にどうにかする、どうとでもなれ!」という気持ちで発表に望みました。そのような意気込みで向かった結果…意外とコミュニケーションがとれました。英語を苦手としていた私にとって、これは今回の訪問のうちで一番の発見です。もちろん、語彙が不十分などの課題はありますが。今まで英語が必要な場所ではかなりの前準備をして臨んでいましたので、実戦として話してみないと自分の弱点などわからないことがあるものですね。

ポスター発表自体については、研究の紹介や交流の場という印象が強かったため(会場ではワインなど飲み物が振る舞われ、ジャズの演奏が行われました)、次のことに注意して話してみました。



ポスター発表にて、担当教授のご友人と

・ **要点中心の、できるだけコンパクトな発表に**

知りたいと思ってくれたら質問してくれますし、長い発表は退屈でしょう。

・ **面白そうな部分を強調した発表に**

メインの結果以外に、それが使われる材料のことなど、興味を引けそうな話題を色々と強調しました。ポスター発表は楽しんでもらって、印象に残った者勝ちだと思います。

・ **少しでも気を止めてくれたら話してみる**

会場には多くのポスターがありますので(今回は約 60 枚)、聞き手から話しかけられることはまれです。話をしないと印象に残りませんし、面白くもないですから、ポスターを見てくれた人に誰彼構わず食いついてみました。(後で聞いたら、隣の発表者だったことも)

その結果、多くの方々が興味深そうに聞いてくれましたし、話しをしていると他の方が興味を持ってくれて、良い循環ができました。発表の最後の方では全く緊張なく話すことができ、むしろ話すことを楽しめたように思います。また、この内容で論文を書いてみてはと言われたときは自分の研究へのモチベーションが上がりましたし、面白かったと笑顔を向けられればそれだけで充実感がありました。さらには、発表の内容が良かったのか、興味を持ってもらえたのかはわかりませんが、発表に対して表彰していただきました。無縁のものだと思っていた自分も、教授も驚きに驚いて、初の学会発表の良い思い出です。



ベストポスター賞受賞

ウィーンでの学会の次は、グラーツへ。ここでは担当教授がグラーツ工科大学で講演をすることが目的です。実は海外の学生さんはどのような感じなのか(講義の雰囲気とか)など知りたかったのですが、訪問時期はちょうど向こうの学期末。もう授業が終わって休みに入っているのか、試験勉強に勤しんでいるのか、講演に学生さんがあまりいなかったのが少し残念でした。一つ新たに知ったのは、オーストリア(?)では拍手のかわりに机を叩くこと。講演後にいきなりガンガン音がするものですから少し驚きました。



グラーツでは教授のご友人の先生(ポスター発表写真内、左)にとっても良くしていただき、色々とお話したのですが、そのうちで「実験とは自然に対して質問を投げかけることだ」という話が印象的でした。私の中では、実験は「知識を得る作業」です。このニュアンスの違いが面白く、国の違いからくるものなのか、個人的な違いなのか、いずれまた知りたいなと思いました。



上) グラーツの街並、左) 城塞跡、右) ぶどう園

最後に今回のオーストリア訪問をまとめると、苦手意識を持っていた英語は話してみるとなんとか伝わりやすし、実際にコミュニケーションをとるうちに自分に何が足りないのかを実感できました。また、様々な人に自分の研究を話すことは、意見やアドバイスをもらえるだけでなく、研究の魅力を再確認できて研究への気持ちのリフレッシュになると思います。

もし私のように、海外へ行くのが不安な方であれば、このような機会に行ってみることをおすすめします。思うよりも、意外となんとかなるものです。